

# 博物館 自己点検・評価報告書

## 1 理念・目的

### (理念・目的等)

- 大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性
- 大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

### ★現状(評価)

#### ・現状

明治大学博物館の理念・目的は、下記のとおりである。

・建学の精神である『権利自由』『独立自治』にもとづき、本大学における学術研究の成果を公開し、ひろく生涯教育に資することを目的とする。

・博物館には、下記のとおり三つの部門があり、それぞれ異なる由来をもつ。

刑事部門は、1929年実物教育のため刑事関係資料の収集と展示を目的に創設された「刑事博物館」を前身とし、法と人権のあり方をテーマとする。

商品部門は、1951年に伝統的手工業製品(伝統的工芸品)の収集と展示を目的に創設された「商品陳列館」(のち商品博物館)を前身とし、商品を通じた生活文化のあり方をテーマとする。

考古部門は、1952年に考古資料の保管と展示を目的に創設された「考古学陳列館」(のち考古学博物館)を前身とし、人類の過去と多様性の追究をテーマとする。

・三つの部門は、全体として下記のような役割を担っている。

第一に学内共同利用機関として、第二に国内有数の資料保存機関として、第三に生涯教育機関として、21世紀の生涯学習社会において、「知」による社会貢献を果たしてゆくことを目的とする。

#### ・長所

・上記の理念・目的は、簡潔明瞭であり、リーフレット、ガイドブック、広報紙「ミュージアム・アイズ」、ホームページ等の情報媒体に掲載し周知している。

・博物館は、資料の収集展示・調査研究・教育普及という三つの重要な機能を持つ。博物館活動の基盤となる資料保存機能の充実を図るとともに、学部・大学院や産学公民等の社会連携によりさらなる教育普及活動の発展を目指している。

・上記の役割や機能が相互に連環し、総合化されることにより、一層充実した博物館事業を展開することが期待できる。

#### ・問題点

研究内容の高度化や学習ニーズの専門分化に伴い、専門性と総合性の両立を要請される社会状況において、上記の理念・目的を達成する上で、連携事業や生涯教育事業を広い視野で担える人材の養成や組織・人員の一層の充実が必要である。

### ★改善方策

・問題点に対する改善方策

・問題解決性、実現可能性、メリット・デメリット、費用対効果などの観点から、博物館事業全体の見直しを図るとともに、必要な投資・人員の配置等について長期的に検討してゆく。

### (理念・目的等の検証)

・大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

### ★現状(評価)

#### ・現状

建学の理念「権利自由」「独立自治」は、125年以上前に樹立されたものである。これらを現代化する

とともに、より訴求力の強い新しいモットーとして、『『個』を強くする大学』や『グローバル・コモン』が標榜されている。

博物館における三つの目的「法と人権」「生活文化のあり方」「人類の過去と多様性」も、「個」と社会とのかかわりを考える上で、有意義なテーマとなっている。

・長所

「法と人権」のテーマは、『『個』を強くする』というモットーを徹底する上でもっとも密接な関係を持ち、「生活文化のあり方」「人類の過去と多様性」という二つのテーマも深い関連性を見出すことが可能である。

・問題点

21世紀の生涯学習社会にふさわしい博物館事業が展開できるように中テーマ・小テーマを工夫し、理念・目的の周知徹底を図ることが必要である。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

目的・理念や目標を検証する機会として下記のような場を通して、現状認識を共有し今後の課題について議論してゆく必要がある。定例打合せ(正副館長・職員, 週1回), ミーティング(職員, 週1回), 職場研修(年1~2回), 博物館協議会(年1~2回), 「自己点検・評価の集い」など。

## 1 理念・目的に基づいた特色ある取組み

(大学・学部・大学院研究科における特色ある取組について強調してください)

★現状(評価)

・現状

1929年に「刑事博物館」を創設して以来、およそ80年間、博物館は、貴重な学術研究資源を収集・保管し、教育・研究、出版・報道の利用に供している。

博物館は、調査研究の成果を社会に還元するため、年間340日以上無料で公開し(特別展は有料の場合あり)、年間5万5千人以上が来館している。

特別展・公開講座等の教育普及事業を活発に展開して、建学理念の高揚、社会貢献に資している。

・長所

稀少性の高い学術資源を体系的に保管するとともに、学部・大学院、学内外の研究機関等と連携して資料を教育事業に活用し、他大学に類例を見ない活発な博物館事業を展開している。

刑事部門は、ユニークな刑事関係資料やほぼ全国的な古文書を持つ。考古部門は、重要文化財4件を含む充実した考古資料を持つ。これらを活用した展示事業は、社会の興味関心を引き起こし評価も高い。

・問題点

刑事・考古両部門は、早くから専任職員(学芸員)を配置し博物館事業に取り組んできたのに対して、商品部門は、職員(学芸員)の配置がもっとも遅く、収集資料の点数もまだ十分とはいえない。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

特別展事業は、社会のニーズ・タイムリー性・目玉とする展示品・費用対効果などの観点から入念に計画するとともに、広報活動を早期から十分に行い、更なる集客力の向上を目指す。

商品部門は、より効果的な展示事業や資料収集のあり方を再検討するとともに、学内外の連携により国際的な展覧会を誘致するなど活動実績を高めるよう努めることが必要である。

## 2 教育研究組織

(教育研究組織)

○ 当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織構成と理念・目的等との関連

・ 当該大学の教育研究組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況

## ★現状(評価)

- ・ 現状  
学長の統督のもとで、理事会の経営戦略との連携をはかるとともに、教職員との連携態勢を全学的に構築するよう努めている。
- ・ 博物館を代表する館長の総括のもとで、学芸員による収蔵資料の保管や活用、施設・設備の維持、利用者へのサービスを向上させる運営体制を構築するよう努めている。

### (1)設置の部門

#### ①刑事部門

建学の理念「権利自由」にもとづき、刑事関係資料を展示する。歴史的な法令を時系列で紹介するとともに、江戸の捕物具、日本や諸外国の拷問具・処刑具など人権抑圧の歴史を物語る実物資料を展示している。ギロチン、ニュルンベルクの鉄の処女は、我が国唯一の展示資料である。

#### ②商品部門

漆器、染織品、陶磁器などの伝統的工芸品は、我が先人の生活の所産であり、誰もが日常的に接するもっとも身近な日本文化である。商品の原材料、部品、製造技法、半製品から完成品にいたる製造工程、意匠の種別などを展示し、日本の伝統的工芸品の全体像を紹介している。

#### ③考古部門

本学は、1950年に文学部考古学専攻が発足して以来、旧石器時代から古墳時代にいたる各時代の遺跡を調査研究してきた。その中には、出土資料が重要文化財に指定されている群馬県岩宿遺跡・埼玉県砂川遺跡・神奈川県夏島貝塚・栃木県出流原遺跡などが含まれている。50年以上にわたる調査研究の成果を公開している。

### (2)委員会

#### ①博物館協議会

学部所属の教員(理工学部・農学部については、当面、生田校舎を代表して1名)と事務管理職によって構成されている。年2回、定例の協議会を開催している。

協議会委員より選出された教員により資料評価分科会が構成されている。

ア.協議会 任期 2005.4.1～2007.3.31

イ.資料評価分科会 任期 2005.4.1～2007.3.31

#### ②各種委員会

明治大学黒耀石研究センター運営委員会、大久保忠和考古学振興基金運営委員会、博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会等を組織し、具体的・専門的な業務に対応している。

2007年度秋季特別展実行委員会、同展示検討部会を組織し、教員と連携しつつ特別展示の準備・検討を行い、その研究・調査活動の成果を展示している。

ア.明治大学黒耀石研究センター運営委員会

任期:2007.3.15～2008.3.31

イ.2007年度秋季特別展実行委員会

任期 2006.12～2008.3

同 展示検討部会

任期 2006.12～2008.3

ウ.大久保忠和考古学振興基金運営委員会

任期 2007.4.1～2009.3.31

エ.博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

任期 2006.10～

### (3)学芸員による教育・研究支援

博士ないしは修士の学位を持つ学芸員が配置され、専門的業務ないしは庶務的業務をつかさどるとともに、学芸員資格あるいは修士の学位を持つ嘱託職員の補助を得て教育・研究支援にあたっている。

### (4)教員、専門研究者との共同プロジェクト体制

展示会や収蔵資料整理などは、学芸員、教員、専門研究者による共同研究プロジェクトとして実行している。

・長所

館長・副館長は、全学的な視野から館務を統括しており、各担当の学芸員は、専門性を発揮して業務を遂行している。

各業務において適切なマネジメントを行うことによって、各種の教育・研究支援業務を遂行し、学内外から評価を得ている。

収蔵資料の管理と継承、博物館独自の教育サービスの提供などは、学芸員が専門的知識をもとに日常的運営を遂行している。

資料収集や展示品貸借に関わり発生する他の博物館、官公庁との折衝や書類作成などの博物館専門業務については、この分野に精通した担当職員が中心となり日常的に運営している。

・問題点

学芸員養成課程のカリキュラムにおける館務実習に対応するため、学芸員が学長の委嘱状を受けて受託指導をおこなっている。館務実習の望ましいあり方については、博物館法等の規定があいまいであり、博物館学でもあまり言及されておらず、問題点が指摘されている。

2007年9月10日の新事務機構改革にともない、庶務的事務に精通した専任事務職が異動したため、これらの事務を学芸員が分担処理する状況が生じている。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

教育研究支援職員として学芸員は、恒常的にスキルアップを図るとともに、教職員と学芸員とのより密接な連携による教育研究事業を企画・立案・遂行する方策を策定する。館務実習については、指導にあたる学芸員の専門職としての制度的な確立を検討する。

### 3 教育内容・方法等

#### (1) 学士課程の教育内容・方法

##### ① 教育課程等

(学部・学科等の教育課程)

- 教育目標を実現するための学士課程としての教育課程の体系性(大学設置基準第19条第1項)
- 教育課程における基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ
- 「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系性並びに学校教育法第83条との適合性
- 一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性
- 外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮と「国際化等の進展に適切に対応するため、外国語能力の育成」のための措置の適切性
- 教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性
- 基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況
- カリキュラム編成における必修・選択の量的配分の適切性、妥当性

★目的・目標

本学の教育・研究の成果を社会に還元する装置として、博物館のミッションに基づき、生涯教育の最新動向を踏まえて、多彩な教育普及事業を展開し生涯教育の充実に資する。

また国家資格である学芸員資格の取得を希望する学生を受託し、充実した博物館施設や体系的な資料を活用し、教育普及事業を体験することで、資格取得課程の教育の充実に資する。

★現状(評価)

・現状

(1) 博物館実習 本学学芸員養成課程あるいは、他大学の要請に応じて館務実習生を受託・指導し、国家資格である

学芸員資格の取得を希望する学生に対して、博物館の特長を活かした実務教育をおこなった。

①館務実習

ア. 刑事部門

参加者	明治大学 18 名・関西学院大学 1 名・創価大学 2 名・川村学園女子大学 1 名
実習内容	収蔵資料の整理、マイクロフィルム等二次資料の整理、錦絵整理、他

イ. 商品部門

参加者	明治大学 6 名・専修大学 1 名
実習内容	収蔵資料整理、展示の計画立案(コレクション展「意匠さまざま」)・キャプション類製作、特別展受付担当

ウ. 考古部門

参加者	明治大学 27 名・創価大学 2 名・帝京大学 1 名・東京女子大学 1 名	
実習内容	資料整理コース	収蔵資料整理、保存処理、坂本万七写真研究所コレクション整理 特別展受付
	展示制作コース	明大コレクション「古代中国の陶俑」制作、特別展受付

②見学実習

ア. 受入数

見学実習	5 月	9 月	12 月	合計
団体数	1	2	1	8
人数	12	24	8	44

イ. 内訳

5月	創価大学見学実習
9月	南山大学、成蹊学園史料館
12月	了徳寺大学芸術学部 博物館学履修生

★改善方策

(社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮)

・社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮

★目的・目標

大学施設の開放を推進し、万人に開かれた優しい博物館施設となることを実現するため、さまざまなバリア・フリー化を推進する。

★現状(評価)

・現状

(1)開館日数および時間

利用者へのサービス向上のため、土曜午後・日曜・祝日の開館を行うとともに、授業期間中における延長開館の要望に随時対応して開館している。

(2)外国人留学生の利用促進

実物の資料やグラフィック・パネルを用いたビジュアルな展示によって、日本の歴史や文化に対する理解を促す手法は、万国共通の博物館展示となっている。サイン表示類も英語表記を設け、英語・中国語・韓国語のリーフレットを作成している。

・長所

他大学の博物館施設に比べて、土曜午後・日曜・祝日に開館するとともに、随時開館時間の延長に対応し、大学の開放を促進している。入館者の動線や視線計画に配慮したわかりやすい展示で日本の歴史や文化を紹介し、一般の外国人の来館者が増加している。

・問題点

展示部門において、外国語表記が一部分にとどまっているので充実させる必要がある。

★改善方策



- ・問題点に対する改善方策  
印刷物については、和文・英文併記とするなど、外国語表記の充実につとめる。

## ②教育方法等

### (教育効果の測定)

- 教育上の効果を測定するための方法の有効性
- 卒業生の進路状況

#### ★目的・目標

実施した教育普及事業について、第三者的視点による効果測定を実施する。

#### ★現状(評価)

##### ・現状

来館者によるアンケート記入、本学の学生、教職員や博物館友の会会員が参加した「自己点検・評価の集い」、特別展のふり返りの会などを開催し、教育効果の測定に努めている。また、博物館友の会から常に改善点の指摘を受けられるように、連絡会議を月1回開催している。改善方法の策定については、週1回の専任職員による定例会議で検討している。

##### ・長所

多様な意見を業務に反映させることができる。

##### ・問題点

博物館の専門家による点検・評価の機会が乏しい。

#### ★改善方策

##### ・問題点に対する改善方策

アンケート用紙の回収率向上を図るとともに、点検・評価活動に一層多くの人びとが参加できるような方策を講ずる・また専門家による点検・評価の機会を設ける。

### (授業形態と授業方法の関係)

- 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性
- 多様なマルチメディアを活用した授業の導入状況とその運用の適切性
- 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度の運用の適切性

#### ★目的・目標

実物資料の提示が、博物館教育の特徴である。「視覚」「聴覚」「嗅覚」「触覚」に、映像・音響を加え、抽象概念の伝達にとどまらず、五感で体感できる教育形態がメリットを引き出す。公開講座で実物資料の活用を促進し、映像・音響などのメディアミックスによるリアリティある教育事業の形態や方法を工夫する。

#### ★現状(評価)

##### ・現状

実物資料の提示が、博物館教育事業を特色あるものになっている。また、入門講座等は、AV教室を利用して、ビデオ上映、写真・図版の投影、パソコン画面の拡大投影によるメディアミックス型の講義を実施している。

##### ・長所

ビジュアル性の向上、五感に訴える情報提供により、観察力・思考力の向上など学習効果を高めることができる。

##### ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

③国内外との教育研究交流

(国内外との教育研究交流)

- 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
- ・ 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性
- ・ 国内外の大学との組織的な教育研究交流の状況

★目的・目標

博物館は、国際的な学術交流に対応できる学術資料を収蔵している。展覧会や研究交流を通して資料の活用を図り、国際交流の推進に資する。

★現状(評価)

・現状

海外からの視察団の見学に対応した。

・イタリア中世犯罪博物館と共催による「ヨーロッパ拷問展」(1997年度)、英国大使館後援による「水墨画と筒描藍染で詩うテムズ河旅情」展(1998年度)、韓国国立忠北大学校と共催による「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」展(2004年度)などの特別展を開催した実績を持つ。

・スイス、カナダ等の海外の博物館に資料提供、資料出品を行った実績がある。

・長所

国際的な学術交流に対応できる学術資料を収蔵している。

・問題点

現在は所属員が個々に海外の先進的な博物館事業を取り込むべく努力しているが、組織的にこれを進める必要がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

所属員が海外の博物館事業の調査・研究の機会を得られるよう検討する。

5 学生生活

★目的・目標

博物館資料およびそれに関連する専門的な事項について研究しようとする者に対して、積極的に支援する。

(学生への経済的支援)

- 奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性
- ・ 各種奨学金へのアクセスを容易にするような学生への情報提供の状況とその適切性

★現状(評価)

・現状

考古学・博物館学を研究する大学院生・一般社会人を対象として、研究奨励基金事業をおこなっている。情報提供については、関連分野を担当する本学教員、卒業生のネットワークを活用している。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

## 6 研究環境

★目的・目標

展覧会や収蔵資料整理などは、館蔵コレクションにもとづく共同研究プロジェクトとして実行する。学芸員は、業務遂行上必要なスキルアップのため、研究活動をおこなう。

(研究活動)

- 論文等研究成果の発表状況
- ・ 国内外の学会での活動状況
- ・ 当該学部・研究科として特筆すべき研究分野での研究活動状況
- ・ 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

★現状(評価)

- ・現状  
学芸員は、『博物館研究報告』に論文を執筆している。また、勤務時間外に調査研究活動に積極的に従事するとともに、専門分野の学会に所属し研究成果を発表している。特色あるコレクションである内藤家文書と黒耀石に関する調査研究活動が、進展している。
- ・長所  
博物館職員は、事務職採用だが、調査研究活動に対応できる学芸員が配置されている。
- ・問題点  
博物館の調査研究活動は、法令や博物館規程で当然のこととされているが、事務分掌内規では明記されておらず、制度的に保証されていない。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
調査研究活動は、学芸業務を遂行するスキルを維持するために不可欠である。学芸員の専門職としての制度的な確立を検討する。

(教育研究組織単位間の研究上の連携)

- 附置研究所を設置している場合、当該研究所と大学・大学院との関係
- ・ 大学共同利用機関、学内共同利用施設等とこれが置かれる大学・大学院との関係

★現状(評価)

- ・現状  
(1) 本学と長和町(旧長門町・旧和田村)との「明治大学及び長門町における社会連携事業の推進に関する協定書」(2006年6月30日締結)にもとづき、明治大学黒耀石研究センターを拠点として協定事業が推進されている。  
(2) 学内共同利用機関として、特別展示室を学内外の機関等による展覧会の利用に供し、教育・研究の成果を社会に還元することができた。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
学内共同利用機関として教育・研究機能を強化し、特別展や学内外の諸団体による展覧会その他の生涯教育事業を一層充実させ、「知」の社会貢献を推進する。



**(経常的な研究条件の整備)**

- 個人研究費, 研究旅費の額の適切性
- 教員個室等の教員研究室の整備状況
- 教員の研究時間を確保させる方途の適切性
- 研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性
- 共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性

**★現状(評価)**

・現状  
学会や公的機関・民間企業の主催する各種研修に出張し、研鑽を深めている。

**★改善方策**

・問題点に対する改善方策

**(競争的な研究環境創出のための措置)**

- 科学研究費補助金および研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況
- ・ 基盤的研究資金と競争的研究資金のバランスとそれぞれの運用の適切性

**★現状(評価)**

・現状  
平成 19 年度特別補助(事業団分) 知の拠点としての地域貢献支援メニュー群 5「大学等施設の開放支援」を受けた。

平成 19 年度特別補助(事業団分)

補助項目	申請額	内定額
知の拠点としての地域貢献支援メニュー群 大学等施設の開放支援	30,159 千円	14,209 千円

**★改善方策**

・問題点に対する改善方策

**(研究上の成果の公表, 発信・受信等)**

- ・ 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性
- ・ 国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

**★現状(評価)**

・現状  
(1) 『博物館研究報告』をはじめ、博物館の刊行物に研究成果を発表している。  
国内外の大学や研究機関、官公庁の文化財調査を担当する機関から研究成果として刊行物の寄贈を受けている。

・長所  
万人に開かれた図書室で閲覧が可能である。

・問題点  
2007 年度から配架図書のデータ・ベース化が進行中であり、検索できる図書は一部にとどまっている。

**★改善方策**

・問題点に対する改善方策  
書誌データの入力を推進する。

**7 社会貢献**

★目的・目標

博物館は、本来的に社会貢献を目的とした機関であり、社会への開放・社会連携を積極的に推進する。我が国の博物館界では、生涯学習プログラムの新たな展開として、以下のような点が注目されている。

(1) 展覧会・公開講座

展覧会や各種講座の充実・拡充、関連するワークショップや体験学習などの導入。

(2) 自己学習への支援

利用者の自己学習の支援策として、市民参加型のイベントの開催、友の会やボランティアへの支援など、市民の参加により成立する「場」の提供。

(3) アウトリーチ活動

博物館資料を公共財産として活用する、遠隔地での教育サービスの提供。

これらの点において、先進的な実践事例となる事業を展開する。

(社会への貢献)

- 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度
- 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況
- 教育研究の成果の社会への還元状況
- 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況
- ・ 大学附属病院の地域医療機関としての貢献度
- 大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性

★現状(評価)

・現状

博物館は、先端的な研究を担う大学に付属する機関として、先進的な実践事例を提示するため、さまざまな学習機会の提供や生涯学習プログラムの研究・開発を実施している。

(1) 展覧会 展示の公開と公開講座を通じて、教育研究成果を社会に還元した。

特別展をはじめとする展示会の開催により、貴重な学術資源と博物館の調査研究の成果を公開し、学習機会を幅広く提供するとともに、文化財の保護と継承について啓発している。

特別展示室を学内外の機関等による展覧会の利用に供し、教育・研究成果の社会還元に寄与した。

① 特別展

2007 年度春季特別展「ガウランド 日本考古学の父」	
入場者数	3,990 人

2007 年度秋季特別展「明治大学所蔵村絵図の世界 故郷の原風景を歩く」	
入場者数	2,830 人

② 主催展覧会

新収蔵資料展2007	
入場者数	1,370 人

③ 共催展覧会

高札—支配のかたち—	
入場者数	735 名

日中考古学交流のさががけ	
入場者数	586 名

④ その他の展覧会

“漆”新世紀 —最新テクノロジーによる次世代機能材料の研究開発—	
入場者数	1,370 名

文部科学省学術フロンティア推進事業 縄文時代後・晩期の地域と社会	
入場者数	1,872 名

児玉房子がガラス絵で描く宮沢賢治の世界	
入場者数	3,244 名

明治大学新収中国石刻貴重拓本展Ⅲ 唐代の石刻と文人文化	
入場者数	949 名

⑤コレクション展

テーマ	明大コレクション1: 中国鏡
-----	----------------

テーマ	明大コレクション(番外): 岩櫃山遺跡
-----	---------------------

テーマ	明大コレクション9: 記念館前遺跡の出土資料①
-----	-------------------------

テーマ	明大コレクション 10: 古代中国の陶俑
-----	----------------------

テーマ	明大コレクション 10: 記念館前遺跡の出土資料② 江戸の漆椀
-----	---------------------------------

テーマ	意匠さまざま—甲州印伝・長崎べつ甲・絵ろうそく—
-----	--------------------------

テーマ	伊賀くみひも
-----	--------

テーマ	伝統工芸赤津焼
-----	---------

テーマ	染付
-----	----

テーマ	山形の伝統工芸
-----	---------

テーマ	意匠さまざま
-----	--------

テーマ	熊野筆
-----	-----

(2)講演会・講座

博物館入門講座、特別展開連講座、リバティ・アカデミー連携講座、公開特別講義、博物館友の会と連携した講演会、ギャラリートークなど、多彩な公開講座を開催した。

①博物館入門講座

第 53 回	「伝統工芸は今…陶磁器の伝統と現在・三大産地編」		
受講者	10 名	会場	博物館教室

第 54 回	「今日から始める古文書講座」		
受講者	15 名	会場	博物館教室

第 55 回	「刑事博物館の世界を識る～大学知的資源社会還元シリーズ2007～」		
受講数	36 名	会場	博物館教室

第 56 回	「石器の研究事はじめ—氷河時代の知恵を探る—」		
受講者	6 名	会場	博物館教室・体験学習室

第 57 回	「土器の読み描き事はじめ」		
--------	---------------	--	--

受講者	8名	会場	博物館教室・体験学習室
-----	----	----	-------------

第58回	「展示ケースの向こう側－明大コレクションの逸品たち」		
------	----------------------------	--	--

受講者	7名	会場	博物館教室
-----	----	----	-------

第59回	「今日から始める古文書講座」		
------	----------------	--	--

受講者	15名	会場	博物館教室
-----	-----	----	-------

②リバティアカデミー博物館公開講座

第41回考古学ゼミナール ガウランドと日本の古墳研究－日本考古学の父 ウイリアム・ガウランドが残した研究の遺産－			
----------------------------------------------------------	--	--	--

第42回考古学ゼミナール はじまりを探る考古学			
-------------------------	--	--	--

受講者数	101名		
------	------	--	--

ミュージアム連続講演会「『知』の玄関への招待」			
-------------------------	--	--	--

受講者数	26名		
------	-----	--	--

寺子屋講座 続・内藤家文書の世界を探访する－史料が語る歴史・法・社会4－			
--------------------------------------	--	--	--

受講者数	63名		
------	-----	--	--

ア・ミュージアム「知」の玄関への招待 パート2			
-------------------------	--	--	--

受講者数	30名		
------	-----	--	--

寺子屋講座 続々・内藤家文書の世界を探访する－史料が語る歴史・法・社会5－			
---------------------------------------	--	--	--

受講者数	56名		
------	-----	--	--

③公開特別講義

伝統的工芸品の経営とマーケティングケース・スタディ:赤津焼(愛知県瀬戸市)－II 伝統的陶器の販売戦略 産地ブランドと個人ブランド			
----------------------------------------------------------------------	--	--	--

受講者数	73名		
------	-----	--	--

特別展開幕記念特別講演会「ガウランド その人物と生涯」			
-----------------------------	--	--	--

受講者数	120名		
------	------	--	--

第41回考古学ゼミナール ガウランドと日本の古墳研究－日本考古学の父 ウイリアム・ガウランドが残した研究の遺産－			
----------------------------------------------------------	--	--	--

のべ受講者数	約400名		
--------	-------	--	--

日本考古学の父 ガウランドの見た古墳を歩く			
-----------------------	--	--	--

参加者数	42名		
------	-----	--	--

明治大学リバティアカデミー オープン講座特別展開催記念講座「明治大学と村落史研究」			
-------------------------------------------	--	--	--

受講者数	74名		
------	-----	--	--

明治大学リバティアカデミー 博物館公開講座 景観から読み解く江戸時代の村			
--------------------------------------	--	--	--

受講登録者数	36名		
--------	-----	--	--

子ども体験教室「村絵図を描いてみよう」			
---------------------	--	--	--

受講者数	1組
------	----

学芸員によるギャラリートーク	
受講者数	のべ78名

(3)生涯学習支援

新世代の博物館の望ましいあり方として期待される社会連携事業の推進、とりわけ友の会活動などの生涯学習支援を推進した。

①友の会

ア.会員数

		登録者	活動状況	担当学芸員
博物館友の会		347名	通年	—
分科会	古文書を読む会	24名	月1回	外山
	弥生文化研究会	6名	月1回	忽那
	石器文化研究会	13名	月1回	島田
	平成内藤家文書研究会	19名	月1回	伊能
	工芸の会	13名	月1回	外山
	草生水の会	3名		

イ.総会 5月13日(日)

ウ.講演会

a 講演会「日本考古学2007」4月14日(土)

弥生収獲具研究の最前線	文学部准教授	高瀬克範
小林三郎先生の考古学をたどる	文学部教授	石川日出志
明大調布校地内遺跡発掘調査速報	文学部教授	安蒜政雄
「環状盛り土遺構」とは何か	文学部教授	阿部芳郎

b 総会特別講演会 5月13日(日)

貝塚から縄文人の暮らしが見える	前創価大学教授	後藤和民
-----------------	---------	------

c 他団体との交流

国立歴史民俗博物館友の会共催講演会(4月21日)

古代国家と稲	国立歴史民俗博物館長	平川 南
--------	------------	------

d 博物館友の会特別講演会及び会員発表会 3月3日

会員発表会	置戸の遺跡	小松忠史
	内藤家文書の世界—古文書解読の楽しさ—	岡野 茂
	トロイアとアルプスの「翡翠」	岸井 貫
	「工芸の会」について—どのような活動をしているか—	豊島直弥
	ヒスイの交易で地元(糸魚川・朝日町)にもたらしたもの	大山 清
	燃える水献上の儀式を見学して	佐々木榮一
特別講演会	民衆宗教絵画に見る日本人の伝統的生死観	博物館副館長 渡 浩一

エ.見学会・実演会

日本考古学の父 ガウランドが見た古墳を歩く(群馬県)	6月16日
名古屋地区大学博物館と弥生・古墳時代遺跡見学会	12月16日・17日
霞ヶ浦周辺の古墳を訪れる(茨城県)	3月2日

オ.ボランティア

内容	活動日	登録人数
図書室管理員	土曜日を除く開室日	23名※
展示解説員	毎週火・木・金曜日	26名※
特別展「明治大学所蔵村絵図の世界」受付・案内ボランティア	会期中	26名
特別展「明治大学所蔵村絵図の世界」解説	会期中	9名



伝統的工芸品の経営とマーケティング・プロジェクト グループ・インタビュー	11月11日	8名
-----------------------------------------	--------	----

カ.学習サークル

名称	活動日数	活動内容
古文書を読む会	月1回	外部講師を招き、古文書を題材とする講義を受講。関連史跡見学会の実施。
石器文化研究会	月1回	石器実測図の作製。
弥生文化研究会	月2回	関連文献の購読。公開講演会「墓制から見た弥生時代の家族」(講師 忽那敬三・考古担当学芸員)開催。
工芸の会	月1回	「陶磁器」中心の勉強会。美術館等の展覧会見学。館収蔵品の整理作業。
平成内藤家文書研究会	月1回	延岡藩内藤家文書の解説。出版予定原稿の作成。

キ.連絡会議

月に一度、博物館事務室と友の会役員との連絡会議を実施。

ク.ミュージアム・ショップ

友の会掲示板とブースを設置。リーフレット・チラシ類の配布、講演会・見学会のお知らせや見学会報告を掲示した。

ケ.その他

- ・会報「明治大学博物館友の会会報」発行 年4回
- ・博物館広報紙『ミュージアム・アイズ』に活動紹介記事を寄稿。

② 充真院を学ぶ会(延岡市)

名称	登録者	活動状況	担当学芸員
充真院を学ぶ会(延岡市)	10名	月2回	伊能

(4)アウトリーチ活動

博物館資料を公共の財産ととらえ活用する方策として期待される、アウトリーチ活動を展開し、地域連携を推進した。

① 宮崎県延岡市

ア. 講演会 7月12日 「風林火山 武田信玄『甲州法度』と天光院の謎」 講師:伊能秀明 受講者数:約100名。

イ. 特別授業 7月13日 「歴史法廷 あなたも名裁判官」

宮崎県立延岡高等学校 講師:伊能秀明

受講者:台風の接近で県教育委員会の指示により全校生徒に帰宅指示。生徒1名、教職員等10数名が聴講。

ウ. 講演会 3月8日(予定) 「21世紀をひらく～歴史と文化の再発見シリーズ77回 明治大学博物館所蔵『内藤家文書』講演会」 講師:落合弘樹(明治大学准教授)、日比佳代子 受講者数:—

② 長野県小県郡長和町

明治大学キャンパス・ツアーの実施

10月26日、博物館特別展、同常設展示、明治大学図書館等の施設見学を実施した。

③ 東京都千代田区

千代田区ミュージアム連絡会

千代田区図書文化財課の主宰する千代田区ミュージアム連絡会に参加、運営に協力した。

第4回千代田区ミュージアム連絡会(5月27日・千代田区役所)に参加。

※第5回連絡会は入学試験期間中に開催のため欠席。

④ その他

ア. 特別授業 6月21日 土器・石器のハンズオン学習

東京都世田谷区立砧南小学校(区立砧南小学校6年生4クラス)

講師:忽那敬三・田口 慎 受講者数:約130名

イ. 特別授業 9月29日 「学芸員という仕事を知ろう」

東京都墨田区安田学園中学校 講師:忽那敬三

受講者数:約120名

ウ. 長野短期大学現代GP市民カレッジ 6月7日 「子どもを考える」

「考古学から見た子どもー旧石器時代から江戸時代までー」

講師:忽那敬三 受講者数:約20名

(5)展示解説ボランティア研修

友の会に関連する生涯教育、もしくは学生を対象とする教育活動の一環としてボランティアを受け入れ養成した。

①常設展解説ボランティア

ア. 登録者数 26名 ※2007年3月現在

イ. 研修(木曜日)

日程	研修種別	研修内容
5/17	博物館教育	展示解説の理念と博物館教育の特性
5/17	刑事部門1	(日本の罪と罰) 歴史的な法の様々／高札 (江戸の捕者) 捕者具と江戸時代の警察制度 (牢問と裁き) 江戸時代の取調べと裁判
	刑事部門2	
5/24	刑事部門3	(仕置と見懲らし・さまざまな刑事博物)
	刑事部門4	
6/7	考古部門1	日本の旧石器時代 縄文時代の貝塚と生業 稲作の伝来と青銅器のマツリ
	考古部門2	
	考古部門3	
6/14	考古部門4	東国の古墳文化
6/28	商品部門1	(漆器)漆器の特性 (染織)織技法・染色技法の種別 (陶磁器)陶磁器の種別 (その他)竹木工・金工・文具・和紙
	商品部門2	
7/5	商品部門3	
	商品部門4	

②特別展解説ボランティア

ア. 参加者数

受付 本学学生1名 友の会9名 リバティアカデミー1名

解説 本学学生1名 友の会26名 リバティアカデミー6名

イ. 研修

日程	研修内容
7/31 8/20	説明会
9/3	解説員研修
9/13	解説員事前研修
10/25	中間解説

(6)情報提供

教育・研究の成果を幅広く社会に還元するとともに、また、博物館の利用促進をはかるため、下記のとおり事業内容の周知・普及に努めた。

①印刷物

ア. 明治大学博物館広報紙「ミュージアム・アイズ」

49号特集「特別展 明治大学所蔵村絵図の世界 故郷の原風景を歩く」 3,000部

50号特集「明治大学博物館友の会20年の歩み／ミュージアム・アイズ50号までの軌跡」 5,000部

イ. 博物館リーフレット(新版) 50,000部

ウ. 特別展印刷物

特別展「ガウランド 日本考古学の父」ポスター 500枚

特別展「ガウランド 日本考古学の父」ちらし 2,000部

特別展「ガウランド 日本考古学の父」入場券 3,000部

特別展「ガウランド 日本考古学の父」招待券 7,000部

特別展「明治大学所蔵村絵図の世界」ポスター 700枚

特別展「明治大学所蔵村絵図の世界」ちらし 3,000部

特別展「明治大学所蔵村絵図の世界」入場券 10,000部

特別展「明治大学所蔵村絵図の世界」招待券 10,000部

エ. 展覧会案内2008年

20,000部

## ②報道機関等による取材

### ア. 新聞・雑誌掲載

- <明治大学博物館 ミュージアムグッズ紹介>「NEWTYPE Romance」 角川書店
- <明治大学博物館紹介>「moopie」 メディカム
- <明治大学博物館紹介>「月刊 展覧会ガイド」 生活ガイド社
- <明治大学博物館紹介>「PATi・PATi」6月号 ソニー・マガジズ
- <明治大学博物館紹介>『東京散歩』 榎出版社
- <明治大学博物館紹介>『TOKYO 老舗・古町・お忍び散歩』 朝日新聞社
- <明治大学博物館紹介>平成19年度版『千代田区生涯学習ガイドブック』 千代田区
- <明治大学博物館紹介>「大人の街歩き 東京」 成美堂出版
- <明治大学博物館紹介>「螢雪時代」2007年7月号 旺文社
- <「ガウランド 日本考古学の父」紹介>東京新聞 中日新聞社
- <明治大学博物館紹介>『英語で持ち歩く江戸・東京散歩地図』(仮) ナツメ出版企画
- <明治大学博物館紹介>「マップルマガジン大江戸下町散歩 2008年版」 昭文社
- <明治大学博物館紹介>週刊朝日百科「週刊 しゃかぼん」第37号 朝日新聞社
- <明治大学博物館 刑事部門紹介>『日本恋愛事典』Dictionnaire amoureux du Japon アルバン・ミッシェル社(河出書房新社 翻訳刊行)
- <明治大学博物館 刑事部門紹介>日弁連新聞 8月号 日本弁護士連合会
- <明治大学博物館 刑事部門紹介>朝日新聞 朝日新聞東京本社
- <「高札ー支配のかたち」紹介>東京新聞 中日新聞社
- <「明治大学所蔵 村絵図の世界 故郷の原風景を歩く」、博物館入門講座紹介>千代田区文化芸術の秋フェスティバルイベントカレンダー 千代田区文化芸術協会 事務局
- <明治大学博物館紹介>「マップルマガジン東京下町 2008」 昭文社
- <「高札ー支配のかたち」紹介>朝日新聞 朝日新聞社
- <明治大学博物館紹介>「地図で歩く東京下町」 JTB パブリッシング
- <「明治大学所蔵 村絵図の世界 故郷の原風景を歩く」紹介>読売新聞 読売新聞社
- <「明治大学所蔵 村絵図の世界 故郷の原風景を歩く」紹介>『明治』第36号 明治大学
- <明治大学博物館紹介>「2nd NEWS」2007年11月号 NPO 法人セカンドスペース
- <明治大学博物館紹介>「ラジオライフ」2008年1月号 三オブックス
- <明治大学博物館紹介>「ちえけら！」 ワオ・コーポレーション 個別指導 Axis
- <明治大学博物館紹介>「メロガイド」2月号 日刊工業新聞社
- <明治大学博物館紹介>『日本珍スポット100景』 ぴあ
- <「児玉房子がガラス絵で描く 宮沢賢治の世界」紹介>夕刊 読売新聞 読売新聞社
- <「児玉房子がガラス絵で描く 宮沢賢治の世界」紹介>朝日小学生新聞 朝日新聞社
- <明治大学博物館紹介>『ぴあmap首都圏版 2008-2009』 ぴあ
- <明治大学博物館紹介>まっぷるマガジン『東京遊び計画』 昭文社
- <明治大学博物館紹介>「東京ベストガイド 08-09年版」 成美堂出版
- <明治大学博物館紹介>『サーベイ東京』 昭文社
- <明治大学博物館 展覧会紹介>「東京都博物館協議会会報」第98号 東京都博物館協議会
- <明治大学博物館紹介>『ミセスのための東京無料スポット案内』(仮題) 産経新聞出版
- <明治大学博物館 展覧会紹介>「日本歴史」5月号 日本歴史学会
- <明治大学博物館紹介>『首都圏博物館ガイド』 メイツ出版

### イ. テレビ放映

- <明治大学博物館紹介>「GO!GO!キャンパス」 ベネッセコーポレーション
- <明治大学博物館紹介>「スッキリ!!」 日本テレビ
- <明治大学博物館紹介>「山本晋也のなるほど!東京散歩」 旅チャンネル

### ウ. ラジオ放送・ウェブサイト・その他

- <明治大学博物館 刑事部門紹介>ラジオ「多田しげおの気分爽快!」 中部日本放送(CBC)
- <明治大学博物館紹介>ウェブサイト「無料で観に行く!博物館・美術館」
- <「ガウランド 日本考古学の父」紹介>ウェブサイト「インターネットミュージアム」 丹青研究所
- <明治大学博物館紹介>ウェブサイト「asahiguma.com」 朝日新聞社
- <明治大学博物館紹介>ウェブサイト「CLUB グルメぴあ」 グルメぴあネットワーク
- <明治大学博物館紹介>ウェブサイト「バーチャルオープンキャンパス/東京12大学」 明治大学

## ③ミュージアム・ショップ

ア. グッズ販売

ミュージアム・グッズの見本を展示。受付窓口で販売。

イ. 他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

ウ. 来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

エ. 友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

オ. 博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

④ホーム・ページ

(7)教材の提供

近年、期待が高まっている博物館独自の教材開発と利用促進に努めている。

①ワークシート

②ミュージアム・グッズ

・長所

欧米や日本の博物館界で注目される最新の動向を踏まえて、我が国の超少子・高齢社会において望ましい博物館のあり方を模索し、各種の事業を立案・実施している。

実物の資史料を積極的に活用した教育プログラムを展開しており、実物資史料を体系的に有する博物館ならではの独自性の高い教育普及事業を展開している。

ホームページやチラシ、ポスター、外部標識(バナー)などを利用して、広報活動を行っている。

・問題点

特別展示室の利用申請が多くなり、博物館主催事業による利用と学内外の機関等による利用との調整を行う必要が生じてきている。

特別展示室の円滑な利用を行うには、展示環境改善の期間を設けるとともに、利用受付業務の整理が必要である。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

大学博物館の特性をさらに発揮し、より高度な生涯学習のニーズに対応するために、新規事業の研究・開発を進める。

特別展示室の貸し出し業務体制を整備して、展覧会閉幕後の環境改善期間を適切に設ける。

また、特別展示室利用希望者に周知して展示活動を促し、全学的な活用を促進する。

(企業等との連携)

・企業と連携して社会人向けの教育プログラムを運用している大学・学部における、そうした教育プログラムの内容とその運用の適切性

・寄附講座、寄付研究部門の開設状況

・大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策

・企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況

・特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況

・「産学連携に伴う利害関係の衝突」に備えた産学連携にかかるルールの明確化の状況

・発明取り扱い規程、著作権規程等、知的資産に関わる権利規程の明文化の状況

★現状(評価)

・現状

産学公民おのおのの長所を生かして役割を分担するとともに、博物館の長所を社会で有効活用してもらうために、外部機関との連携を積極的に推進する。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

## 9 事務組織

### ★目的・目標

収蔵資料の管理、博物館独自の教育サービスの提供など、恒常的な運営には学芸員の役割が不可欠である。教育研究支援職員として専門的職務を司る学芸員の恒常的なスキルアップを図り、教職員と学芸員との密接な連携により、教育研究事業を企画・立案・遂行する方策を策定する。

### (事務組織の構成)

- 事務組織の構成と人員配置

### ★現状(評価)

- ・現状  
→12 管理運営参照

### ★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
→12 管理運営参照

### (事務組織の役割)

- 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性
- 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性
- 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況
- 大学運営を経営面から支えうるような事務機能の確立状況

### ★現状(評価)

- ・現状  
収蔵資料の管理、博物館独自の教育サービスの提供など、恒常的な運営には専門的職務を司る学芸員の役割に負うところが大きい。職務に必要なスキルの向上、機能の強化に取り組んでいる。
- ・長所
- ・問題点  
事務組織の中で、学芸員の位置付けについては、専門職としての制度的保障がない。研究のための時間や設備は認められておらず、調査研究等の活動は、個人的負担で行っている。

### ★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
学芸員の専門性を向上させ、その技能を博物館事業へ一層反映させたい。一方で、専門職としての学芸員制度の確立を検討してゆく。

## 10 施設・設備等

### ★目的・目標

2004年4月1日の新博物館開館により、施設・設備面で飛躍的に充実した。あらゆる人々に開かれた施設を実現するため、施設の運用段階で発見された課題を逐次解消するよう努力する。

### (施設・設備等の整備)

- 大学・学部大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切



性

- 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況
- ・ 記念施設・保存建物の管理・活用の状況

★現状(評価)

・現状

(1)収蔵室

収蔵資料の特質に応じて最適な条件を設定し、望ましい保存環境の維持に努めた。

(2)展示室

安全で快適な室内環境を維持し、逐次、証明器具・サイン表示類を更新し、整備した。

(3)図書室

安全で快適な室内環境の維持に努めた。受付ボランティアが入退出管理を担当し、閲覧席や書架の秩序を維持した。

(4)その他

各室の温・湿度を測定し、環境条件の向上に努めた。館の所在がわかりにくいという指摘に対し、屋外バナーサインを掲出した。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

(利用上の配慮)

- 施設・設備面における障がい者への配慮の状況
- キャンパス間の移動を円滑にするための交通動線・交通手段の整備状況
- ・ 各施設の利用時間に対する配慮の状況

★現状(評価)

・現状

(1)博物館は、不特定多数の来館者への対応が必要であり、館内の段差を解消したバリア・フリー化を実現した。身体障害者・高齢者用の車イス、乳幼児用のバギーを用意し、要所に点字ブロックを設置したほか、誰でも使用できる多目的トイレを設置した。

(2)学校週5日制や、勤労者に対する教育サービスとして、土曜・日曜・祝日も開館した。

(3)学部等からの要請に応え、図書室利用の便宜を図るため、随時延長開館をおこなった。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策

(組織・管理体制)

- 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- 施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

★現状(評価)

・現状

(1)建物の保守・管理を担当する中央監視室(専門業者へ業務委託)と協力し、良好な環境の維持・管理に努めている。

(2)中央監視室および防災・警備を担当する防災センター(専門業者へ業務委託)と協力し、監視カメラを設置して不測の事態や不審者をモニターするとともに、感熱器・煙探知器があり、火災発生の感知に備えている。博物館は、本学の防災体制において第3消防小隊第1班として編成され、定期的に防災訓練・避難誘導訓練を実施している。火災発生時は、自動的に作動する消防・防火設備が設置されている。

- ・長所  
保守・管理の専門業者と現場担当者による二重の管理体制が組織されている。
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
不特定多数の利用する施設を管理する立場として、平素から安全管理システムの改善に取り組む。

## 11 図書および図書・電子媒体等

★目的・目標

収蔵資料体系の充実に努め、新たにコレクションを収集するとともに、寄贈資料を受け入れる。研究者・学生や研究機関等の調査研究に資するとともに、教科書や研究書、一般書等の出版・報道の利用に供する。本学図書館所蔵図書の内、博物館の展示テーマに関連する図書を閲覧に供する。

(図書、図書館の整備)

- 図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性
- 図書館の規模、開館時間、閲覧室の座席数、情報検索設備や視聴覚機器の配備等、利用環境の整備状況とその適切性

★現状(評価)

- ・現状
  - (1)資料の収集  
刑事、商品、考古3部門の特色ある資料体系の充実のため資料を収集・受贈した。
  - (2)資料利用対応  
資料の利用に関する規定を改正し、研究者・学生や研究機関等の調査研究に資するとともに、教科書や研究書、一般書等の出版・報道の利用に供した。
  - (3)資料整理  
館蔵コレクションの利用促進を図るため、資料収蔵体系の整序に努めた。
  - (4)資料記録  
資料利用のニーズに応じるため、資料目録の刊行、収蔵資料の写真撮影やデジタルデータ化、マイクロ撮影を推進し、情報提供・資料利用体制の整備に努めた。
  - (5)資料修復  
館蔵コレクションの利用促進を図るとともに、恒久的な保存処置を施すため、資料修復を継続的に実施している。
  - (6)図書室  
開架方式の図書室で十数万冊におよぶ関連文献を閲覧に供するとともに、図書館と連携して図書の所在情報を一元化するため、データ・ベース構築に着手した。閲覧座席は16席を確保し、土曜日も16時30分まで開館し、学生・社会人の利用に対応した。
- ・長所  
80年近くにわたる収集活動の結果、国内の博物館でも有数の博物館資料・図書を所蔵しており、豊富な資料を利活用することができる。
- ・問題点

図書の所在情報が図書館と一元化されていないため、データ検索できる図書は一部にとどまっている。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

資料選定や選書は、一層の充実化と若干の見直しをおこなう。図書情報の遡及入力によって、図書データ・ベースを整備する。

(情報インフラ)

○ 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

○ 学術資料の記録・保管のための配慮の適切性

資料の保存スペースの狭隘化に伴う集中文献管理センター(例えば、保存図書館など)の整備状況や電子化の状況

★現状(評価)

・現状

(1)所蔵資料の記録・保存

①考古部門 2000～2004年度にわたり、5年計画で所蔵写真のデジタル化をおこなった。

②刑事部門 館蔵「内藤家文書」のマイクロ・フィルム撮影(継続中)と史料目録のデジタル・データ化をおこなった。

③その他 利用頻度の高い資料写真のデジタル化を推進した。

資料記録

ア.撮影

2007年度特別展出展資料(村絵図)フィルム撮影
--------------------------

高札フィルム撮影
----------

イ.デジタル化

2007年度特別展出展資料(村絵図)フィルム、高札フィルム(刑事部門)
-------------------------------------

資料修復

資料名	修復内容
豊臣秀吉書状	裏打ち
日向国臼杵郡・宮崎郡絵図(内藤家文書)	虫損部補修・裏打ち
日向国臼杵郡・宮崎郡絵図(内藤家文書)	虫損部補修・裏打ち
丹後国何鹿郡山論絵図	接合・虫損部補修
相模国内山村山論絵図	接合・虫損部補修
武蔵国袋山村絵図	接合・洗浄
武蔵国小林村内堤通論所出入図	裏打ち
出羽国観音寺村絵図	裏打ち
出羽国船町村絵図	裏打ち
伊勢国桑名郡長島絵図	接合・虫損部補修
伊勢国鈴鹿郡・三重郡水論絵図	裏打ち
記念館前遺跡出土木器計41点	劣化防止のため、下駄、木簡、漆椀等に保存処理

(2)図書資料の所在情報一元化

新規受入れ分の入力・遡及入力ともに図書館の基準により実施している。

(3)情報提供システムの整備

『研究報告』、広報紙『ミュージアム・アイズ』、資料集、目録、図録等を刊行・頒布しているほか、資料目録や『研究報告』は外部機関によりインターネット上で公開されている。

・問題点

学術情報の記録・保存については、継続的に取り組んでいるが、情報公開・提供については、デジタル化への早急な対応が課題である。

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策  
情報提供用のシステム構築、ホームページ等を通しての適切な提供方法について検討を進め、システム構築作業の第一段階として、データのデジタル化作業を進める。

## 12 管理運営

### ★目的・目標

#### (学長、学部長、研究科委員長の権限と選任手続)

- 学長・学部長，研究科委員長の選任手続の適切性，妥当性
- 学長権限の内容とその行使の適切性
- 学部長や研究科委員長の権限の内容とその行使の適切性
- 学長補佐体制の構成と活動の適切性

### ★現状(評価)

#### ・現状

##### (1)館長・副館長

館長は、専任教授の中から学長の推薦で大学が任命する。副館長は、館長の推薦と学長の同意で大学が任命する。館長は、館務を総括する。副館長は、館長を補佐し、館長に事故ある時はその職務を代行する。任期2年で再任はさまたげない。

任期:2006.4.1～2008.3.31(2008.4.1 再任～2010. 3.31 任期満了予定)

##### (2)博物館事務室(2007. 9.10 から社会連携事務室博物館グループと改称)

#### ①専任職員

博物館事務長(2007.9.10 から社会連携事務長)の指揮・監督の下、博士・修士の学位を持つ学芸員、ミュージアム・マネージメント担当の専任職員(2007.9.10 異動)が博物館の運営を分担している。

#### ②嘱託職員

学芸員資格を持つ嘱託職員が学芸部門およびミュージアム・マネージメント部門の業務を補助している。

#### ・長所

専門的知識と経験を持つ学芸員が、長期的な視野から博物館を運営できる。

#### ・問題点

学芸員は、事務職であるため、人事異動の対象となっており、かりに異動が発令された場合、博物館業務が停滞する懸念がある。

### ★改善方策

#### ・問題点に対する改善方策

学芸員が、継続的に博物館業務を推進できるような体制を整える必要がある。

#### (意思決定)

- 大学の意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性

### ★現状(評価)

#### ・現状

週1回の定例打合せ、週1回の全体ミーティング、年1～2回の職場研修、年1～2回の博物館協議会その他の委員会などで、それぞれ業務や事業について報告するとともに、計画や課題について意見交換や審議をおこない、適宜に指導助言を得て、博物館としての活動方針等を決定している。

#### ・長所

定例打合せ、全体ミーティングでは、頻繁に意見が交換され、共通の認識が形成されている。

・問題点

業務の繁忙化により、意見交換の時間が制約される場合がある。

職場研修や博物館協議会その他の委員会は、業務の繁忙化や構成人数により、まれに日程調整の困難な場合が生じている。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

メール等を活用して、速やかに意見の集約を行えるよう工夫している。

(管理運営への学外有識者の関与)

・管理運営に対する学外有識者の関与の状況とその有効性

★現状(評価)

・現状

学外の大学・教育委員会その他の学識経験者等の専門家等に、各種委員会の委員を委嘱している。

・長所

学外の学識経験者等による、広い視野と豊富な職務体験にもとづく客観的な意見の聴取や助力が期待できる。

・問題点

委員が本来の業務により、まれに欠席する場合がある。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

学外委員には、メールその他で連絡を取り、欠席の場合でも意見を聴取できるように工夫している。

(法令遵守等)

○ 関連法令等および学内規定の遵守

○ 個人情報保護や不正行為の防止等に関する取り組みや制度、審査体制の整備状況

★現状(評価)

・現状

博物館は、社会教育法で社会教育(生涯教育)のための機関と規定され、博物館の目的や事業については、博物館法に定められている。

関係法規等に、博物館にかかわる政令・省令・告示・報告・指針・通達、文化財保護法、著作権法、そのほか各種の審議会の答申・建議・報告、国際的な勧告・条約等がある。

・長所

個人情報の保護や不正行為等の防止については、学内のガイドラインや監査等で、適正な運用を図る取り組みがなされている。

・問題点

博物館法で、学芸員は博物館の専門的事項をつかさどると規定され、博物館規程でも同様の趣旨が定められているが、本学では学芸員は事務職として採用され、位置付けに不明確な部分があるため、科学研究費の申請等の外部資金導入が困難であることが指摘されている。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

学芸員の位置付けの明確化は、20年来の懸案であり、今後とも教育・研究に関する計画書等に記述し、改善を進めてゆく。



## 13 財務

### ★目的・目標

博物館事業の拡充にともなう経費の一助とするため、外部資金の獲得に努め、大学の財政基盤の強化に寄与する。

### (外部資金等)

○ 文部科学省科学研究費，外部資金（寄附金，受託研究費，共同研究費など），資産運用益等の受け入れ状況

### ★現状（評価）

#### ・現状

平成19年度特別補助(事業団分)知の拠点としての地域貢献支援メニュー 5「大学等施設の開放支援」の補助金の受け入れた。

### ★改善方策

・問題点に対する改善方策

### (財務監査)

○ 監事監査，会計監査，内部監査機能の確立と連携

### ★現状（評価）

#### ・現状

内部監査を特命事項とする監査担当特任補佐が置かれ、前期・後期の年2回、公認会計士を監査人とする法定監査を実施している。

#### ・長所

監査人から会計上の問題があれば、指導を受けることができる。

### ★改善方策

・問題点に対する改善方策

指摘を受けた点については、次回の監査までに改善し、監査時に報告している。

## 14 自己点検・評価

### ★目的・目標

公共的機関として博物館事業の適正化のため、博物館全般において外部評価が注目されている。外部評価にたえる博物館運営を目指し、自己点検・評価活動を推進する。

### (自己点検・評価)

○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性

★現状(評価)

・現状

自己点検・評価委員会を組織した。また、博物館協議会において自己点検・評価報告書を提示し、検討を依頼した。  
一般来館者にも開かれた「博物館事業のふりかえりの会」を実施し、博物館友の会会員等から、博物館活動に対する多様な質問・要望を受けた。  
また博物館友の会から改善点の指摘を受けられるように、定例的に連絡会議を開催している。

・長所

委員は、博物館業務に精通しており、博物館を自己点検・評価するには適する。点検・評価事業の実施により、外部者による多様な意見を反映できる。

・問題点

公的機関としての博物館の性格を考慮すると、より多くの人々が点検・評価事業に関わることが望ましい。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

一般来館者にも開かれた「博物館事業のふりかえりの会」開催の広報に力を入れる。

(大学に対する社会的評価等)

- ・大学・学部・大学院研究科の社会的評価の活用状況
- ・自大学の特色や「活力」の検証状況

★現状(評価)

現状

(1)1998年3月、大学基準協会による相互評価の認定通知で、本学の長所として評価された。

(2)文部科学省から年少者向け事業の充実度が評価され、2001年度に「親しむ博物館づくり事業」、2004年度、2006年度に「地域子ども教室」の実施を委託された。

(3)大学博物館の先進的モデルケースとして、官公庁、自治体、国内外の大学・研究機関、各種教育団体による視察・研修が増加している

(4)充実した収蔵資料や、学問的水準を保ちながらもわかりやすい展示に対して、報道機関・出版社による取材が増加している。

(5)2006年度の大学基準協会の相互評価の認定において、博物館が本学の教育・研究の向上に果たしてきた役割が高く評価された

- ・前年度の自己点検・評価の結果を元に、次年度の「教育・研究に関する年度計画書」を策定し、学長に提出している。

・問題点

外部の博物館の専門家による評価機会が少ない。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

博物館の専門家による評価機会を実現する。東京都教育委員会による博物館相当施設登録申請へ向けて、準備を継続する。

## 15 情報公開・説明責任

★目的・目標

事業内容に関する情報公開は、公器としての博物館にとって責務の一つであり、改善に向けて外部評価を受け入れるためにも、積極的に情報公開策を講じる。

<p><b>(財政公開)</b></p> <p>○ 財政公開の状況とその内容・方法の適切性</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 1994年度以降、年度ごとに『博物館年報』を刊行し、事業報告や収支状況を公開している。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策</p>
<p><b>(点検・評価結果の発信)</b></p> <p>○ 自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性</p> <p>○ 外部評価結果の学内外への発信状況とその適切性</p>
<p>★現状(評価)</p> <p>・現状 1994年度以降、年度ごとに『博物館年報』を刊行し、学外の関係各機関に対して前年度の事業に関する総括を報告している。</p>
<p>★改善方策</p> <p>・問題点に対する改善方策 引き続き『博物館年報』の内容的充実を努めるとともに、博物館の望ましいあり方について点検・項目を策定し、評価を『博物館年報』や広報紙に掲載することを検討する。</p>